

炊き出しボランティアとは

◆1995年に発生した阪神淡路大震災。避難所に路上生活者の方が長く居られない状況もありました。「神戸の冬を支える会」はそうした状況に対して、温かい食事の提供を行う炊き出し支援を始めました。現在、支援内容は炊き出しを始め健康相談、散髪、法律相談など多岐にわたっています。

◆兵庫民医連では、毎年「神戸の冬を支える会」と一緒に支援活動を行なっています。医師・看護師をはじめ病院スタッフと医系学生が一緒になって、テントの設営、炊き出しの準備、健康調査アンケート活動に取り組んでいます。この取り組みは、神戸新聞でも取り上げられました。

◆ボランティア後は医系学生の交流会を予定しています。みなさんご参加ください。

ち 2016年(平成28年)12月29日 木曜

おかゆを求めて列を作るホームレスや生活困窮者ら＝東遊園地



困窮者らに炊き出し

NPOなど 東遊園地 115人が列

ホームレスや生活困窮者らへの炊き出しが28日、中央区の東遊園地で始まり、初日は115人が列を作った。生活、医療、法律の各種相談や散髪サービスもある。1月5日まで。NPO法人「神戸の冬を支える会」などでつくる実行委員会が1995年12月から、行政機関の休庁期間に合わせて実施している。厳しく冷え込んだこの日、海鮮がゆやコーヒーなどが振る舞われ、訪れた人は体を温めた。派遣切りを経て5年前から路上生活を続けるという男性(54)は「仕事も収入源もない。繁華街に落ちていく物を拾い集めて暮らす日々。炊き出しは非常にありがたい」と語った。

支える会の岩本郁理事は「ホームレスは減少傾向だが、ネットカフェを転々とするなどの『ホームレス予備軍』が目立ち、貧困は形を変えて拡大している」と話した。

炊き出しは毎日午後0時半から。各種相談は午前11時～午後3時半。(藤村有希子)

参加者交流会・ミニ学習会

◆ボランティア終了後に参加者同士の交流会とミニ学習会を予定しています。昨年は、神戸女子大学講師の阿江善春氏より、私たちの身近にある「貧困」について学習会を行いました。



◆◆◆昨年参加者の感想◆◆◆

◆貧困が直接その人の健康に影響していることが分かりました。今後医療従事者として患者さんと接する際、その人の生活背景を知ることが大事だと思いました。今回の対話活動は良い機会になりました。(看護学校3年生)

◆人間関係、健康などに問題がある人々にとって、この世界は生きにくいということを実感した。医療と貧困層をつなげるべきだと思った。(医学部2年生)

◆ずっと寒い中で野宿をしなければならぬことの大変さを知りました。医療に関する知識だけではなく、社会がどのような現状であるかということに常に目を向けながら医療を行っていかねばならないと感じました。(高校2年生)

ホームレス支援炊き出しボランティア ～学生ボランティア募集～



と き： **12月28日（木）10:00～16:00**【雨天決行】

集 合：JR三ノ宮西口改札 9:40

と ころ：三宮・東遊園地

対 象：医学生 看護学生 薬学生 医師を目指す高校・予備校生

締 切：12月22日（金） ※ボランティア保険登録のため

【活動の内容】

- ・健康調査アンケート
- ・医師や看護師、MSWによる医療相談活動
- ・温かい食事を提供するお手伝い
- ・テント設営 etc...

【服装】

- ・防寒で動きやすい服装



☆お問い合わせ・お申込み☆

兵庫民医連・医学生ボランティア係 ☒ igakusei@hyogo-min.com（右記 QR コードからでも可）

件名に『炊き出しボランティア参加希望』、本文に『学校名・学年・学部学科・氏名・年齢・住所（ボランティア登録のため）（当日連絡のとれる）電話番号』を入力ください。

